

# CASBEE<sup>®</sup> 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	川窓電機工業(株)京都工場新築工	階数	地上2F
建設地	京都府八幡市下奈良奥垣内2-1他	構造	S造
用途地域	準工業/第1種住居 法22条地域	平均居住人員	18 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,304 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年5月 予定	評価の実施日	2010年9月30日
敷地面積	6,074 m <sup>2</sup>	作成者	太平工業(株)平瀬正行
建築面積	1,172 m <sup>2</sup>	確認日	2010年9月30日
延床面積	2,163 m <sup>2</sup>	確認者	太平工業(株)木村潤一

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 3.2  
Q1 室内環境: 0.0  
Q3 室外環境(敷地内): 2.1  
LR1 エネルギー: 3.8  
LR2 資源・マテリアル: 3.5  
LR3 敷地外環境: 2.8

### 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

建設: 91%  
参照値: 100%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

音環境	温熱環境	光・視環境	空気環境
N.A.	N.A.	N.A.	N.A.

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

機能性	耐用性・信頼性	対応性・更新性
N.A.	2.9	3.5

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.1

生物環境	まちなみ・景観	地域性・アメニティ
1.0	3.0	2.0

**LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8

建物の熱負荷	自然エネルギー	設備システム効率化	効率的運用
N.A.	3.0	5.0	3.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5

水資源保護	非再生材料の使用削減	汚染物質回避
3.0	3.3	4.3

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.8

地球温暖化への配慮	地域環境への配慮	周辺環境への配慮
3.7	2.4	2.4

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 生産施設であるため、将来にわたって生産能力に影響しない建築物とすると共に周辺環境へ過度の負荷を与えないよう配慮する。		
<b>Q1 室内環境</b> 室内の空気汚染に配慮し、全ての仕上材でF☆☆☆☆を採用。 照明・換気など生産活動に適切な環境となるように努める。	<b>Q2 サービス性能</b> 生産機械の変更に对应できるように設備の更新性向上に努める。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 出来る限り緑地を残し、道路に面する部分はフェンスの高さにも配慮する。
<b>LR1 エネルギー</b> 照明による年間消費エネルギーの低減に努める。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 有害物質を含む材料の利用を行わない。	<b>LR3 敷地外環境</b> 一部透水性舗装の採用、騒音振動の規制値遵守で周辺環境・インフラへの配慮に努める。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい